

第5課

杖歩行



杖つえを使うつか利用者りようしゃさんと一緒いっしょに歩あるいたり、階段かいだんを上のぼり下おりするときは、杖つえの使つかい方かたや、足あしを出だす順じゆん番ばんに注ちゆう意いしましょう。

◆パートⅠのA

イラストを見て語るタスクですが、ここでは、利用者さんにとって楽しい時間の一つである「食事」を取り上げ、「食堂に行く」場面としました。次の第6課は、散歩に行く人、帰ってきた人などの場面ですが、ここでも4人の利用者さん全員が登場していません。

◆パートⅢのG「杖選びの注意点」

ここで、専門的な知識を得ることが目的ではありません。杖歩行をテーマに、関係したことを学びながら、言葉を知ったり、場面に慣れたりすることが目的です。専門的な知識に焦点を当てるのではなく、このテーマ・場面を使って日本語を学ぶ、コミュニケーション力をつけることを大切にしてください。

◆介護の基本「杖の使い方」

グエンさんが、「他に「杖」を使ったことわざや慣用句に、どんなものがあるかな」と考えています。実は、「杖」を使ったことばはそれほど多くありません。

- * 杖とも柱とも頼む
- * 打たれても親の杖

ここでは、むしろ「杖ことば」「ことばの杖」といった比喩的な言い方を伝えてはいかがでしょうか。

* 『杖ことば』(五木寛之、文春文庫、2016)

時代を生き抜くためには「心の杖」としての「言葉」が必要です。
五木寛之は「ことわざ力」が大切だと語っています。

* 『ことばの杖』(李良枝、新泉社、2022)

「人は誰しも、朝起きたときに、言葉の杖を掴んで生きる」と書き記しています。

◆川柳に詠まれた「杖」

<https://nakamaaru.asahi.com/article/13138587>

